



熊本市 感染症発生動向調査 速報



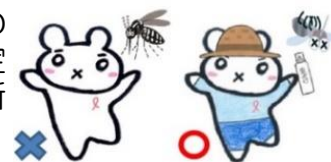
蚊に気をつけて（特に海外）！！たかが蚊、されど蚊

蚊は刺されてかゆいだけならまだいいのですが、色々な感染症を運んでくる運び屋でもあります。34週の週報でチクングニア熱の特集をしましたが、熊本でも1月から蚊が媒介する感染症の発生報告が3件ありました。

★**デング熱**（2件）…感染したと思われる地域（フィジー）（フィリピン）

★**マラリア**（1件）…感染したと思われる地域（インド）

3件とも、現地で蚊に複数回刺されているとの事でした。帰国してから蚊に刺された記憶はないとの事です。また厚生労働省によると、海外で感染した家族から国内で蚊を介して感染した可能性が否定できないデング熱の患者が、9月に沖縄県で確認されています。蚊が生息していたと考えられる場所には殺虫剤の散布が行われたそうです。蚊に刺されないことが大切です！！



蚊から身を守りましょう！

日本脳炎、マラリア、黄熱には予防接種ワクチンがありますが、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱やジカウイルス感染症にはワクチンも予防薬もありませんので、自分たちで予防をしなければなりません。家屋の窓に網戸を設置することや（蚊取り線香も有用です）、屋外にいる場合は長袖のシャツ、ズボンを着て、できるだけ皮膚の露出部を少なくするようにしましょう。ディート（DEET）やイカリジンなどの有効成分が含まれている虫よけ剤を使うなどの防御方法をとるようにしましょう。使用する場合には、必ず添付書類に記載されている使用法を守ってください。日焼け止めを使う場合は、先に日焼け止めをつけてから、虫よけ剤を使用してください。子ども、とくに乳児への虫よけ剤の使用については、小児科医にご相談ください。とくに流行地へ旅行をするときは蚊に刺されないよう十分な準備と注意が必要です。FORTH厚生労働省検疫所のホームページでは海外での感染症の流行状況や予防接種等の情報提供を行っています。

蚊の発生を防ぎましょう！

その地域に分布する媒介蚊を可能な限り減らすことが最も効果的です。蚊は少しの水たまりでも卵を産みますので、環境改善による蚊の幼虫発生源

（空き缶、ペットボトルや古タイヤ、植木鉢の受け皿等の水溜まり）を無くすようにしましょう。

帰国時や帰国後に、症状が出た場合は、必ず受診前に医療機関へ電話で相談して指示に従ってください。その際①症状 ②渡航先 ③滞在期間 ④予防接種歴 ⑤動物との接触の有無 ⑥旅行中の行動 ⑦宿泊先の状況（虫除け対策が出来ていたか）などを伝えて下さい。

FORTH厚生労働省検疫所
海外で健康に過ごすために
ホームページ



期 間		2019年 37週		2019年 38週	
		9/9～9/15		9/16～9/22（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	↑	2	0.08	5	0.20
RSウイルス感染症	↑	80	5.00	59	3.69
咽頭結膜熱（プール熱）	→	3	0.19	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	22	1.38	29	1.81
感染性胃腸炎	↑	52	3.25	42	2.63
水痘（みずぼうそう）	→	2	0.13	3	0.19
手足口病	↑	37	2.31	21	1.31
伝染性紅斑（りんご病）	↑	7	0.44	13	0.81
突発性発しん	↑	11	0.69	13	0.81
ヘルパンギーナ	↑	23	1.44	16	1.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）	↑	26	5.20	21	4.20
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	→	0	0.00	1	0.20
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	→	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	→	0	0.00	0	0.00